

どんぐり村の こみ・すく通信

令和元年10月25日発行 第12号
更別村コミュニティ・スクール委員会

みんなの学校応援団 の活動を紹介〈その8〉

「アイヌの生活や文化を学ぶ」

9月27日。更別小学校の4年生が、帯広市役所の柴田さん、百年記念館の長谷さんを講師に、アイヌの人々の生活や文化について学びました。道指定のふるさと・環境教育事業の一環で、小・小連携も兼ねて上更別小学校の児童3名も一緒に学習しました。



はじめは、アイヌ語の復習から。挨拶の「イランカラッテ」は十勝地方の方言では「イナンカラッテ」と言うそうです。アイヌ語にも方言があるんですね。

次に、アイヌ文化に関するクイズ。たとえば・・・「アイヌの伝統的なお酒トノトにはどんぐりが使われていました。おいしくなるのはA ミズナラのどんぐり、B カシワのどんぐり、どちらでしょう？」



正解はBのカシワなのだそうです。さすが「更別村の木」ですね。

その後、児童の代表がアイヌの伝統的な衣装を着せてもらいました。じゃんけんを勝ち抜いた4人、うれしそう。



休み時間も、講師の先生たちの周りに児童が集まり、たくさん質問をしていました。更別の子どもたち、学習意欲おう盛です！



休憩の後、スチロール板やストロー、スズランテープを使って、鹿笛のレプリカを作りました。本物は、木や鹿の膀胱の皮、植物のつるなどでできていたそうです。

きれいに音を出すためには、正確な作業が必要です。

協力し合って、ていねいに作っていました。

できあがった鹿笛は、スズランテープを指で押さえて吹く



と、「きい、きい」と、確かに鹿の鳴き声のような音がしました。鹿を呼ぶために吹くのではなく、首を下げて草を食んでいる鹿が、驚いて体を起こし、静止することで、弓で射やすくなるために使ったそうです。なるほど。

矢に塗ったという猛毒トリカブトのお話も勉強になりました。気を付けましょう。

